

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体をもち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

<合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子>

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい五代の子」の育成

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) ○授業の充実（楽しく、どの子にも分かる授業）

(2) 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）

(3) 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）

(4) 道徳教育の充実（豊かな心と道徳的実践力の育成をめざす）

(5) 交流や体験学習を通して、人と関わることの喜びや達成感、自己肯定感を育む活動の充実

(6) ○決まりを守り、礼儀正しい生活ができる等、規範意識の育成

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびようWGS学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を、「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導者として」、継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置づけ、道徳教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図りたい。

○ ☆一人一人のよさを認め合い、心が通い合う人間関係づくりを図る、安全で楽しい学校づくり

【学 習 指 導】

指導方法等の工夫により、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、問題解決的な学習や、体験的な学習を適切に取り入れて、学ぼうとする意欲や態度を育て、児童にとって「分かる授業」を実現する。また、授業において、受容的で共感的な話す・聞く能力や態度の育成を通して人間関係力の育成も図る。

☆ 基本的な学習態度や学習技能の習得を基にした基礎・基本の確実な定着を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ お互いを認め合い、豊かな心をもつ児童を育成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・性教育・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

☆ 自分の体に関心をもち、進んで運動に取り組み、健康の保持増進を心がける児童を育成する。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「わたしは、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかかわり」を大切に適切な支援を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.5% ↓ (90.8%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 92.7% ↓ (93.3%)、地域住民 100% → (100%) といずれも 90%以上で達成状況は良好である。
		② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。	B	【次年度の方針】 ・友達と考えを交流する場を積極的に設定したり、係活動を活性化させたりし、「他者とのかかわり」を大切にした支援を、引き続き行っていく。
		③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。	B	・水曜日のロング昼休みになかよし班で活動する「なかよしタイム」を月に1回程度実施し、班の連携を深めるなど、なかよし班活動の充実を目指す。
		④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。	B	・児童がさらに充実した活動ができるよう、活動の目的を理解させ、「新学習指導要領」「宇都宮スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、諸計画を精選し、修正を加え実践していく。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかり指導する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 96.9% ↑ (95.9%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 91.8% ↑ (86.7%)、地域住民 100% → (100%) といずれも 90%で達成状況は良好である。
		② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。	B	【次年度の方針】 ・ロング昼休みに担任が学級の児童と遊び、教室では見られない児童の良さを見取る。教育相談を有効に活用しながら、児童一人一人を見取り、声掛けなどを継続的に行っていく。
		③ 学校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。（新たな発想プラスワン企画、自分の得意分野を伸ばす、互いに支え合う組織づくり）	B	・学校内外で保護者や地域の方々と挨拶や言葉を交わすなど積極的にコミュニケーションを図るとともに、来校者への誠実な対応に努めるよう全職員で取り組んでいく。
		④ 欠席児童への電話連絡及び家庭訪問実施、授業参観時の来校者への積極的な声かけを行う。	B	・各自が校務分掌において「学校経営の方針」の具現化に努め、取組を精選しながらスクラップ&ビルドを引き続き推進し、効率的な運営を行っていく。 ・欠席児童への電話連絡をや家庭訪問の実施、来校者への積極的な声掛け等は、次年度も積極的に行っていく。

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「生活と学習・10の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、自己評価をする。 ② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定や周知を工夫するとともに、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、生活の振り返りを毎週末に行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。 ③ 「五代の子の一日」の提示を工夫し、学期終わりや長期休業前に児童の生活を振り返らせる機会を与えるとともに、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。 ④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会においての事例研究などの研修を実施し、児童理解に努める。 ⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間や地域との連携を図る。 ⑥ 学級懇談会の充実や育成会・自治会等の協力により、家庭・地域との連携を強化する。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 76.3%↓(80.3%)で、数値指標 80%以上を下回っている。保護者 87.1%↓(89.8%)、地域住民 100%→(100%)といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 「学習のやくそく」を掲示し、常時児童への意識付けを図る。 - 週の生活目標を決定する際には、月目標にこだわらずとも、その時その場に合ったものを示す。(できたかできなかったかの振り返りをしっかりする。) 「五代の子の一日」は、年度初めに各家庭の配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 - 下校指導や登校班編制などで集合した際には、横断の仕方や歩行の仕方を練習する機会を設ける。(今年度登校班長の指導実施。引き続きやっていく。) - 振り返りは、口頭でなく、目に見える形で行えるよう工夫して実施する。 - 毎月開催している児童指導委員会の場で、できていることできていないことの共通理解を図り、きまりやマナーを守ることを全校的に推進していく。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ③ 「『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上について」の「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 95.4%↑(94.4%)を示し、数値指標 80%を上回っており、地域住民も 100%→(100%)と高い値を示している。 - 教職員も 100%→(100%)と評価が高いが、保護者は 82.9%↑(81.7%)と昨年度より値が上がったものの、他者より評価が低かった。 【次年度の方針】 - 学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。そのために、視聴覚教材や実物見本等、児童が興味・関心をもって授業に臨めるような教材を使用する。 - まとめや振り返りの時間を確保することで、授業の終末を充実させ、学力向上につなげていく。 - 学校課題研究や「一人一授業」の実践により、教員間での学び合いを深められるようにする。 「分かる授業」チェックリストの活用により、自己評価を行い、授業力向上につなげられるようにする。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳や学級活動、朝や帰りの会を活用し、「いじめは絶対に許さない」という意識を高める。 ② 「いじめゼロアンケート」や教育相談を実施することにより、いじめの早期発見と早期解決に努める。また、学年だよりやホームページにいじめゼロ強調月間の取組を掲載する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 96.6% ↓ (97.0%) で、数値指標 80%以上を大きく上回っている。保護者 73.4% ↑ (66.7%)，地域住民 100% ↑ (87.5%)といずれも昨年度の数値を上回っている。 【次年度の方針】 ・保護者のアンケートの数値がわずかではあるが上がっている。引き続き昇降口の掲示を行うとともに、学校での取り組みを発信して行く。(学校だより、学年だより等の利用。ホームページに掲載) ・いじめは決してあってはならないことだということの意識付けを図るため、学年だよりには、毎号、スローガンを載せるようにする。 ・毎月開催している児童指導委員会の場で、いじめについての共通理解を図り、いじめゼロに向けて推進していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 児童アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行ったりして、児童の成就感存在感を得られるような行事や日課になるよう継続実施を図る。 ② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。 ③ 「なかよしタイム」の活動を通して、高学年児童がリーダーシップを育む活動として本年度も継続して実施する。 ④ 就学時健康診断は5年児童が係を行うことで、次年度、新1年生に対し6年生としてかわることができるため、本年度も同様の方法で実施し結果を検証する。 ⑤ 教職員による各種行事の反省は、主務者を中心に速やかに行い、問題点を本年度中に検討し、改善策検討し、改善策を考え、文書等に残し次年度に生かしていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は87.3% ↓ (89.2%) を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 94.8% ↓ (95.4%)，地域住民 100% → (100%)と達成状況は概ね 95%以上で良好である。 【次年度の方針】 ・児童主体の活動になるよう、今後も反省を生かし企画・立案に努める。 ・地域の人材・教材を積極的な活用に努め、児童が主体的に活動できるような学習を実践していく。 ・今後も「縦割り班清掃」や「なかよし班活動」を充実させ、異学年児童の交流を深めるとともに、高学年児童のリーダーシップを育む活動としていく。 ・就学時健康診断は5年児童が係を行うことで好結果を生みだすことができるため、次年度も引き続き、5年生が係を行う。 ・今後も各行事の反省を速やかに行い、反省が次年度に生かされるように各主務者は、今年度中に改善策を検討し、次年度の主務者に引き継いでいく。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。 ② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。 ③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。 ④ 児童の体力の状況は、「五代の子」(体育関係通信表)を1年間に1回ではなく、体力テストや各種検定後、保護者に渡し、把握してもらう。 ⑤ 学習や生活の状況は、通知票以外に、個人懇談や家庭訪問、学級懇談等で知らせられるよう、詳しく記録を残す。 ④ 危機管理情報は、宇都宮市が行う学校情報提供システム、メール配信による情報を速やかに伝えられるようにする。 ⑤ 小中一貫教育として、本年度「図書だより」を発行したが、新たな便り、ホームページ等で情報を発信していく。	【達成状況】 - 保護者の肯定的回答率は 93.1%↓(94.7%)を示し、数値指標 80%以上を上回っており、地域住民 100%→(100%)と達成状況は良好といえる。 【次年度の方針】 - 地域やコミセン等に学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行っていく。その際、手紙だけでなくメール配信を必要に応じて活用していく。 - 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は引き続きその都度知らせていく。 - 各種便りは係を中心に今後も質・量を高める努力をする。特に学年だよりは、児童の学習や成長の様子をより具体的に伝えていく。 - 児童の体力の状況はその都度知らせ、保護者に把握してもらうとともに、体育の授業等で補強運動を取り入れる。 - 学習や生活の状況は、「個人の記録」とともに、教育情報システムの「日々のようす」も活用する。 - 危機管理情報は、メール配信で情報を提供していく。(メール配信の加入率 100%になるように働きかける。) - 今後も、地域学校園で共通の内容の「食育だより」、「図書だより」等を発行していく。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで、学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。 ② 「親子給食会」は、今年度の取り組みを充実させ継続実施する。「学校保健・給食合同委員会」では、家庭や地域との連携を深め食育や健康の充実を目指す。 ③ 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 86.1%↓(88.8%)を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 90.0%→(90.3%)地域住民 100%→(100%)と達成状況は良好である。 【次年度の方針】 - 今年度の取組をより定着させるとともに、できるだけ家庭や地域、企業等との連携を図り、児童の学びにつなげるようにする。 「親子給食会」を引き続き実施し、給食に関する学校の取組について保護者の理解を得るとともに、「食育」に関して家庭の協力をあおぐ。また、地域協議員に食や健康についての児童の実態を知らせると共に、協力を仰ぐ。 - 低学年における幼・保・小連携の推進や、「五

	④ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	B	代夏まつり」への協力により、児童に地域との関わりをもたせる。 ・安全・安心ボランティアとの連携を密にし、児童の安全確保に努める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充など努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。(年度初めの環境整備計画に沿って実施できるようにしていく。)	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、79.4%↓(84.9%)を示し、数値指標 80%以上を下回った。教職員 81.6%↓(82.9%)、保護者は 89.6%↑(88.4%)、地域住民 100%→(100%)であった。 【次年度の方針】 ・安全点検を確実に実施し、施設の保全に努める。 ・教材教具が不足がちなので補充を進め、児童が主体的に操作したり、観察・実験したりできるようにする。 ・本年度に引き続き、年度初めの計画に沿って校内掲示が実施できるようにしていく。 ・清掃分担は年に3回変更し、新しい環境での新鮮な気持ちを大切にして、清掃活動に意欲的に取り組めるようにする。
	② なかよし班を活用した、縦割り班清掃を実施し、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。	B	
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 有意義な乗り入れ授業や中学校訪問になるよう、担当者をはじめ、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また、互いの授業を参観する機会を設けるなど、職員が相互理解を図ることができるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、90.5%を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 94.76%、保護者 87.3%、地域住民 100%であった。 【次年度の方針】 ・全職員が乗り入れ授業を経験できるよう、計画的に乗り入れ授業者を決定する。 ・今後も小・中学校間の相互理解を図り、学習での接続を意識した連携をしていく。 ・今後も「地域学校園あいさつ運動」の計画的実践を行う。中学生による運動会の校庭整備の手伝い等以外で交流可能なものを検討していく。
	② 学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。(運動会や陸上大会練習、そば打ち体験等)	B	
B 1 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明に心がける。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.0%↑(86.9%)を示し、数値指標 80%以上を上回っている。教職員 94.7%↑(94.3%)、保護者は 87.4%↑(84.3%)と昨年よりわずかではあるが上回り、地域住民は 100%↑(100%)であった。 【次年度の方針】 ・家庭学習の資料を配付するだけでなく、家庭学習の意義や効果を保護者に伝え、協力して児童の学習習慣の形成を図れるようにする。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。
	② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。	B	

教育活動の状況	生 活	A11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施（地域協議会と連携し年2回あいさつ運動強調週間を行う）するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 88.1%↓(89.6%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 69.6%↓(71.6%)，地域住民 100%↑(91.7%)となっている。保護者の数値は少し下がり 70%を割り込んでしまった。
			② 下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日を次年度も実施する。	B	【次年度の方針】 - あいさつは、時と場合に応じたものがうまくできていない子が見られるので、その都度指導をしていく。 - 言葉のつかい方が適切でない児童に対し、発達段階に応じた言葉づかいができるよう、言い直しなどの繰り返し指導を行っていくようにする。 - 登校班長指導に、あいさつ指導も入れていただく。班長が模範となるあいさつができるようにする。班長が下級生に指導できるようにする。 - 毎月開催している児童指導委員会の場で、あいさつについて共通理解を図り、上手にあいさつできるよう全校的に推進していく。
		A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「生活と学習・10の約束」の常時指導の結果を、教師も児童も常に振り返るようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 79.7%↓(80.7%)で、数値指標 80%以上を下回っている。保護者 67.0%↑(66.5%)，地域住民 88.9%↑(66.7%)となっており、昨年度の数値と比べると若干上がっている。
			② 発達段階に即した生活目標により自覚を促し、週の終わりには振り返りをし、生活に生かすようにする。	B	【次年度の方針】 - 発言の仕方、話し方・聞き方を活用し、常時指導をして児童が意識できるようにしていく。 「さん」づけを徹底する。ふわふわ言葉を推奨していく。 - 毎月開催している児童指導委員会の場で、言葉遣いについての共通理解を図り、正しい言葉遣いができるよう全校的に推進していく。
			③ 学校生活の様々な場面において、気持ちのよい言葉づかいについて継続指導をしていく。	B	
		B2 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため、9月、11月と2月に「いじめゼロ」アンケートによる実態調査を実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 88.3%↑(87.9%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 93.7%↓(95.2%)，地域住民 100%→(100%)といずれも 90%以上になっている。
			② 「うつのみや いじめ0宣言」を活用し、いじめ0運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成する。（5月、10月いじめゼロ強調月間）	B	【次年度の方針】 「いじめゼロアンケート」を、学級編成直後の5月、10月ではなく夏休み明けの9月に、さらに学級編成前の2月にも実施し、児童の実態をより把握できるようにする。 - いじめゼロ強化月間中、担任が読み聞かせができるよう、いじめに関する本を市立図書館などの本を一定期間借りるなどする。
			③ おはなし会「ぼけっと」の協力を得て、いじめ強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫していく。	B	

		④ 教育相談月間「おはなしタイム」(年2回)の時間を確保し、充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。 ⑤ 学級満足度調査(Q-Uテスト)の結果を生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。 ⑥ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。 ⑦ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。 ⑧ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。	B B B B B	
健康・体力	A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。 ② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりして、教科体育の充実を図る。さらに、児童が意欲的に取り組めるように学習カードも充実させる。 ③ 児童が意欲的に運動に取り組めるよう、学級対抗によるイベント(ドッジボール大会やなわとび大会等)などを企画し、運動の日常化を図るきっかけを作っていく。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.4%→(87.1%)を示し、数値指標 80%以上を上回っているが、保護者 61.7%↓(63.2%)の評価は低かった。しかし地域住民 88.9%↑(50.0%)の評価は数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・「元気っ子健康体力チェック」において、市全体・全国と比較して落ちている点については、学校全体で体育の授業の準備運動等に取り入れ、より一層ミニマム達成に努める。 ・学習カードを活用し、児童が意欲的に取り組めるよう指導の工夫を図る。 ・学級対抗のドッジボール大会や長縄とび大会を引き続き実施し、児童が進んで楽しく運動に取り組むきっかけを作る。 ・放課後の活動クラブの運動的内容も充実しているため、興味のある児童に勧めるように声掛けをする。
	A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%	① 「食育パンフレット」を活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けるようにする。 ② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、児童の実態に応じた、必要な指導に取り組んでいく。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 80.9%↑(79.3%)を示し、保護者 80.3%↑(72.5%)、教職員 89.5%↑(88.2%)とともに数値指標 80%以上を上回った。 【次年度の方針】 ・学級懇談会や食育だより、ホームページ等により、食に関する保護者への啓発を行い、食

	以上	③ 食事のしかたのきまりをつくり、担任がそれに沿って共通の指導をしていけるようにする。また、給食時計を活用し、食事時間の確保に努める。	B	事マナーに関する協力を呼びかける。 ・毎月のマナー強化週間には、掲示物により児童の食事マナーの意識付けを図る。 ・「お弁当の日」は、地域学校園で同一日に実施する。食事について家庭で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。 ・給食委員会による常時活動の継続と給食週間における、給食集会や郷土食献立の実施などにより食に対する意識付けがより高められるようにする。 ・学級活動の「食に関する指導」において、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や栄養の取り方などについての理解がさらに深まるようにする。
		④ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る	B	
		⑤ 引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。	B	
	B3 児童は、自分の健康の保持や、安全を考えて行動している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は自分の健康保持や安全を考えて行動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は、89.8%（90.6%）を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 84.4%↑（83.0%）、地域住民 100.0%↑（90.0%）とも評価が高い。 ・夏の水分補給のための水筒の持参や、うがいのための水筒持参は健康の意識向上につながっている。 【次年度の方針】 ・歯ブラシの点検、磨き方等、歯みがき指導を徹底し、むし歯の予防に努める。また、治療の呼びかけも複数回行い、治療率の上昇に努める。 ・保健委員会の活動に歯ブラシ点検を加える。 ・正しい手の洗い方（石鹸をよく泡立ててしっかりと洗い、きれいなハンカチで拭き取る。）を各学級で徹底させる。 ・季節に合わせた服装指導に努める。また、その旨を保護者に通知する。 ・安全教育を充実させるとともに、集団登下校時における安全確保のため、保護者・地域ボランティアとの連携を推進する。
		② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める	B	
		③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。	B	
		④ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、緊急時を想定した児童引渡し訓練などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	B	
	学 習 A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している」	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.2%↓（85.8%）を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 92.1%↓（94.1%）、保護者は 83.5%↓（83.6%）と昨年度よりわずかに下回っているものの、数値は低くなかった。地域住民は 100%→（100%）であった。

⇒児童の肯定的回答 80%以上	② ノートの記入を工夫し、整理された分かりやすい使い方を指導する。 ③ 考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合うことができるようにする。	B A	【次年度の方針】 - 朝の学習や長期休業、毎日の宿題を通して、漢字・計算練習を充実させ、基礎的な学力の向上を図る。 - 板書とノートの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。 - ペア学習やグループ学習など、児童が意欲的に学習に取り組める学習形態をこれからも工夫していく。また、問題解決的な学習課題を設定し、互いに学び合うことのできる授業を仕掛けていく。
A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 教室に掲示してある「学習の約束」を時々読み合わせるなど確認したり、自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。 ② 授業開始時刻の遵守、学習用具の準備や話を聞く態度、発表の仕方など基本的な学習態度や学習技能の習得を図る。	B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 80.2%↓(85.0%)を示し、数値指標 80%以上をわずかに上回った。保護者 85.7%↑(84.3%)、地域住民は 100%↑(90.9%)とともに昨年度を上回ったが、教職員は 76.3%↓(97.1%)と、昨年度を大きく下回っている。 【次年度の方針】 - 各学級において「学習の約束」を徹底し、学習態度の育成を図る。 - 全職員共通理解のもとで、学習指導・生活指導にあたっていく。 - 朝の会、授業前に「立腰指導」を行い、精神の安定を図れるようにする。
B4 読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。 ② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入に心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営(図書だよりの内容の充実等)を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。 ③ ボランティア(「おはなし会ぽけっと」や「雀宮おはなし会」など)や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。 ④ 校長、副校長をはじめ担任をもたない教員も朝の読書の時間に読み聞かせを行い、読書への関心・意欲を高める ⑤ 地域協議会学習支援ボランティア(図書ボランティア)と連携し、図書室の環境整備を行う。	B B B B B	【達成状況】 - 児童の肯定回答率は 74.9%↓(76.7%)を示し、数値指標 80%以上には達していない。保護者は 69.5%↑(64.4%)と低いものの、昨年度より値は向上している。 - 教職員は 92.1%↑(91.4%)、地域住民は 100%→(100%)であった。 【次年度の方針】 - 音読カードや読書記録カードの活用により、読書の量的・質的向上を図る。また、読書記録カードの内容については、より児童の実態に合う形になるように改善していく。 - 必読図書2セットを図書室から教室へと移し、児童が本により接しやすい環境を整える。 - 朝読書や教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本と触れ合える時間をさらに増やしていく。 - 巡回図書の活用方法を工夫して、じっくり読書に取り組める環境を整える。 - 保護者に好評だった「親子読書」を読書週間にも行い、年3回から年4回にすることで、家庭での読書習慣の形成を図れるようにする。

		⑥ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通じたコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	B	
本校の特色・課題等	B5 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。 【数値目標】 児童アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 各教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。 ② 児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。 ③ 「発言のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取り組む。	B A B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 93.3%↑(92.5%)と、数値指標 80%以上を上回っている。 ・教職員 97.4%↑(97.1%)、地域住民は 100%→(100%)ととも高い値を示しているが、保護者は 80.9%↑(75.4%)と昨年度より向上しているものの、低い値にとどまった。 【次年度の方針】 ・授業のノートや感謝の手紙など、自分の考えを書く機会を数多く設定する。 ・会話科や道徳の授業にとどまらず、各教科等においても、豊かな感性が育つ場面を設定し、多様な手段で表現できるような授業を工夫する。 ・「発言のしかた」や「話し方・聞き方」を活用し、「伝える力」の育成を図る。
	B6 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年:道徳や授業、体験活動など)では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳の時間では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料を有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。 ② 読み物資料以外にも、インターネット教材など各種教材を開発し、心に響く授業の展開をする。 ③ 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。 ④ 全校一斉の道徳の授業参観を実施する。 ⑤ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。 ⑥ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達といっしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。	B B B B B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 93.6%↑(92.9%)と、数値指標 80%以上を上回っている。 ・教職員は 97.4%↑(97.1%)、地域住民は 100%→(100%)と高い値を示している。保護者は 84.7%↑(83.4%)とやや低いものの、昨年度より向上した。 【次年度の方針】 ・道徳教材の保管については、実践したものを随時ストックしていき、いつでも活用できるようにする。 ・幼保小連携活動は、活動の意義を踏まえて連携を密にし、内容を精選しながら活動内容を検討していく。 ・なかよし班や縦割り清掃班などの異学年交流では、助け合って仲良く生活していくことの大切さが実感できるように、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったしていく。 ・全校一斉の道徳の授業参観を実施することにより、全校体制で心の教育を進めていることを保護者・地域住民に伝えていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、多くの項目で肯定的回答の割合が80%を超えている。（保護者は22項目中17項目、地域住民は22項目中21項目、児童は21項目中17項目）
 - ・地域住民・保護者とも、昨年度よりも肯定的回答率が5%以上高くなった項目が4～5項目あり、5%以上低くなった項目はないが、教職員・児童は、5%以上高くなった項目は1つもない。これは、反省し、改善しなければならないことであるが、児童が、自分たちならもっとできると考えたり、教職員の理想や目標に届かなかつたりしたことが、肯定的回答に至らなかったとも考えられる。
 - ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、肯定的な回答の割合が90%を超えたものは「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している。」「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」である。引き続き学校への理解を深めていただくために各種便りやホームページの充実、授業参観やオープンスクールをはじめとする学校公開の取組に努めていく。
 - ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」94.8%、「児童は、楽しい学校生活を送っている」93.7%、「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」93.1%、「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」92.7%であり、学校の取組に対して理解を示していることがうかがえる。
 - ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が低いものは、「児童は、平日の授業後や休日などに積極的に運動している」保護者61.7%である。学校では、業間や昼休みなどに校庭で活発に遊んだり運動したりしている姿が見られるが、家庭では、ゲームなどで室内で過ごす児童が多いと考えられる。体育の時間の充実はもちろん、生涯体育につながるような言葉かけや手立ても必要であると思われる。
 - ・「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」は保護者69.6%、地域住民100%、児童88.1%、教職員63.2%で、地域住民は（一昨年度82.4%→昨年度91.7%→今年度100%）と年々上昇がみられ、地域の方が来校した際の児童のあいさつや、地域でのあいさつができるようになってきていると思われる。あいさつについては、児童会を中心に、全職員共通理解の下、指導に取り組んでおり、「あいさつ運動」として学級ごとに分担を決めて、朝の昇降口前で実施した。また、あいさつカードを配るなどの工夫もしている。若松原地域学校園で「あいさつの日」として毎月第1木曜日の朝に中学生が一緒にあいさつをしている。高学年生のリードする影響もあると思われ、登校班長が率先してあいさつすると、下級生もできるようなので、上手なあいさつの仕方を指導していく。保護者や教職員の割合が低いので、引き続き学校の課題の一つとして取り組んでいく。
- 「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。」は保護者87.3%、地域住民100%、児童90.5%、教職員94.7%と高い割合である。中学校との乗り入れ授業や中学校訪問、あいさつ運動などの取組、地域学校園の食育だよりや図書だよりなどの取組等が浸透してきた結果が表れている。
- ・「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」は保護者67.0%、地域住民88.9%、児童79.7%、教職員55.3%である。保護者・地域住民・児童・教職員ともに評価が低い。学校、家庭が一体となって考え、取り組んでいかなければならないことである。学校においては、児童指導委員会を中心に改善策を考え、粘り強く指導していきたいと考えている。
 - ・「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」は、保護者73.4%、地域住民100%、児童96.6%、教職員97.4%で、地域住民・児童・教職員の肯定的回答の割合は高いが、保護者は低い。しかし、昨年度よりも6.7ポイント上がっている。昨年度の反省をもとに児童も教職員もいじめ防止へ積極的に取り組んでいることを保護者に向けて、発信したことが表れている。さらに学校での取組が分かるように発信していききたい。
 - ・児童の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」96.9%「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」96.6%「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」95.4%、「学校（道徳、授業、体験活動など）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」93.6%、「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるよう教えてくれる。」93.3%、と、児童は、教職員・保護者・地域の方々に見守られ、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。

6 学校関係者評価

- ・あいさつはだんだん良くなってきている。しかし、しない人もいるので、教職員や保護者、地域住民など大人が率先して手本を見せていくことが重要である。
- ・それぞれ個性のある子どももいるので、あいさつをしない子どもには、こちらから想いをもって接してあげるといい。
- ・教職員にも元気がなくあいさつをする人がいるので、教職員自ら明るく元気よくあいさつしてほしい。
- ・学校以外では不審者対策もあり、あいさつをしにくい世の中になっている。知っている人でなければあいさつはしないのではないか。
- ・女の子は成長していくにつれ男性にあいさつをしなくなる。成長の証である。
- ・言葉遣いは丁寧な言葉だけがいいとは限らない。地域の人には「よっ」とでも声をかけてもらえると嬉しい。また、子どももその日の調子によって変わるもので、一概に評価できないのではないか。
- ・言葉遣いはテレビで流行している言葉を使いやすい。友達同士の会話のまま先生に言うってしまうのかもしれない。
- ・児童にとっては、しっかりした言葉遣いをしているつもりだと思う。子どもたちに言われた側の気持ちをわからせるように具体的な取組（マナー教室など）をしていくといい。
- ・言葉遣いについては、子どもは放課後、解放された気持ちなので悪くなるのは仕方がない。
- ・教職員の評価が低い項目は授業に関する項目が多い。授業に集中できなかったり態度が悪かったりする児童が多いのではと予想できる。これは教職員の指導の問題ではなく、保護者の問題でもある。クラスの状況を発信して保護者にも協力してもらったらいいいのではないか。
- ・ポイントが下がると、そこに改善の力を加えなければならないと思って圧がかかっていく。落ちた要因を探って対処し、掘り下げていかなければならない。
- ・保育園は自己チェックリストを前期と後期の2回行っている。小学校では1回なのでなかなか判断は難しいのではないか。
- ・スポーツ少年団等の加入率の低下に伴い、いい意味でのスポーツでの指導等が行われなくなったことも、あいさつや言葉遣い、マナーの低下などの要因にあるのではないか。また、ネットなどで、会話しなくても済むなど、コミュニケーションの方法が変わっていることも影響していると思われる。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・全体的な傾向として肯定的回答の割合が高いということは、校長の学校経営方針を全職員が共通理解して教育を進めてきた成果であると言える。今年度の評価を受けて、来年度も、さらに肯定的回答の数値が上昇することを目指して全職員で取り組んでいく。
- ・「あいさつ」については、今後も教職員が率先して手本となるようなあいさつを心がけ、速やかで親切な対応に努め、児童・保護者・地域住民と積極的にコミュニケーションを図ることにより、連携・協力態勢を強化し、学校を核とした家庭・地域の教育環境の充実を図る。
- ・「言葉遣い」については、正しい言い方（敬語や丁寧語）を教え、言い直しをさせるなど、繰り返し指導してはいるが、今後も生活・学習の様々な場面で、繰り返し指導していきたい。また、教職員自身も自らの言葉遣いについては意識していかなければならない。
- ・「運動」については、今後も生涯体育の観点からも家庭と協力して、学校内外でできる運動を推奨していきたい。
- ・今年度の成果と課題を受けた「次年度の方針」に基づき、児童がさらに充実した学校生活が送れるようにするため、「主な取組」を具体的に設定し、「評価指標」達成のための活動を積極的に推進する。「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育推進計画」「宇都宮市小中学校体力向上計画」等の趣旨を踏まえ、見直しを図る。